

第二問

次の文章は、『琴葉集』^{きんようしゅう}「話したること全て聞きたる茜姫」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

今は昔、^{あかね}茜、^{あおい}葵、^{ゆかり}紫といふ三人の舞姫おはしけり。ある時、紫たつみあがりて、「(ア) おいや、茜こそ。良きこと思ひ及べり。こころをたてて、高名なる実況師にならむと決しけり」とぞのたまひける。茜、「(イ) 然なり、然なり」とぞ。

紫あきらめ給ふに、若き人々のことぐさになりたる遊びありけり。(ウ) いみじうおもしろく興あれば、世人のすなるかかるものを、我もしてみむとてすなり。我賢ければ、数多の敵華やかに討つべしとぞのしりけるに、茜例ならず「あやし」とぞいらへける。紫続きて「いみじうめでたきさまを詠みて世人に告げ、名に立たまほし。あなや、うつくし、はづかしとなむ誉めらるる、これこそせうとくよ。茜よ、いかばかりかはあはれなる」となむ勇みののしりけれ。

(エ) あさまし、このことはとどむべしとひとりごち給ふを聞きて、いみじき憂へにしづみ給ひけり。紫うちわななきてののしるに、「然なり、然なり。知りては止むべし」とぞ。(オ) 然なり、何とにはなしとうち笑ひ給ひけり。

〔注〕 ○実況師——遊びの実況をして楽しむ者。

設問

(一) 傍線部ア・ウ・エ・オを現代語訳せよ。

(二) 「然なり、然なり」(傍線部イ)とあるが、この傍線部から、茜は紫の発言にどのような心情を抱いているか説明せよ。

(三) この文から、紫はどのような人物であると読み取れるか、説明せよ。

全文訳

昔、茜^{あかね}、葵^{あおい}、紫^{ゆかり}という三人の舞姫がいらっしやった。ある時、紫が興奮して、「聞いてよアカネちゃん！ 良いこと思いつきました。私、有名実況者になります！」とおっしやった。茜はこれを聞いて、「せやな、せやな。」とおっしやった。

紫が詳しく説明しようとして、「今話題のゲームがあるんですよ、面白そうなので私もやってみようと思うんです。まあゆかりさんは天才ですから？ 敵を華麗にバツタバツタやつつけるわけです」と大声をあげなさった。茜はいつもと違った様子で「うん？」とお答えになった。紫はこれに続いて、「それを生放送したりですね！ 動画をアップしてですね！ その結果ランキングに載るわけです！ そしてみんなにチャホヤされてですね！ ゆかりちゃんカワイイ！ カッコイイ！ って！！ 言われちゃうんです！！！！ ね！ いい考えでしょ！」と更に興奮して大声をあげなさった。

茜が「あほくさ、やめたら？ このゲーム」と独り言をおっしやったのを聞いて、（紫は）大変な悲しみに沈み込みなさった。（茜は）「せやな、知らんけど」とお笑いになった。